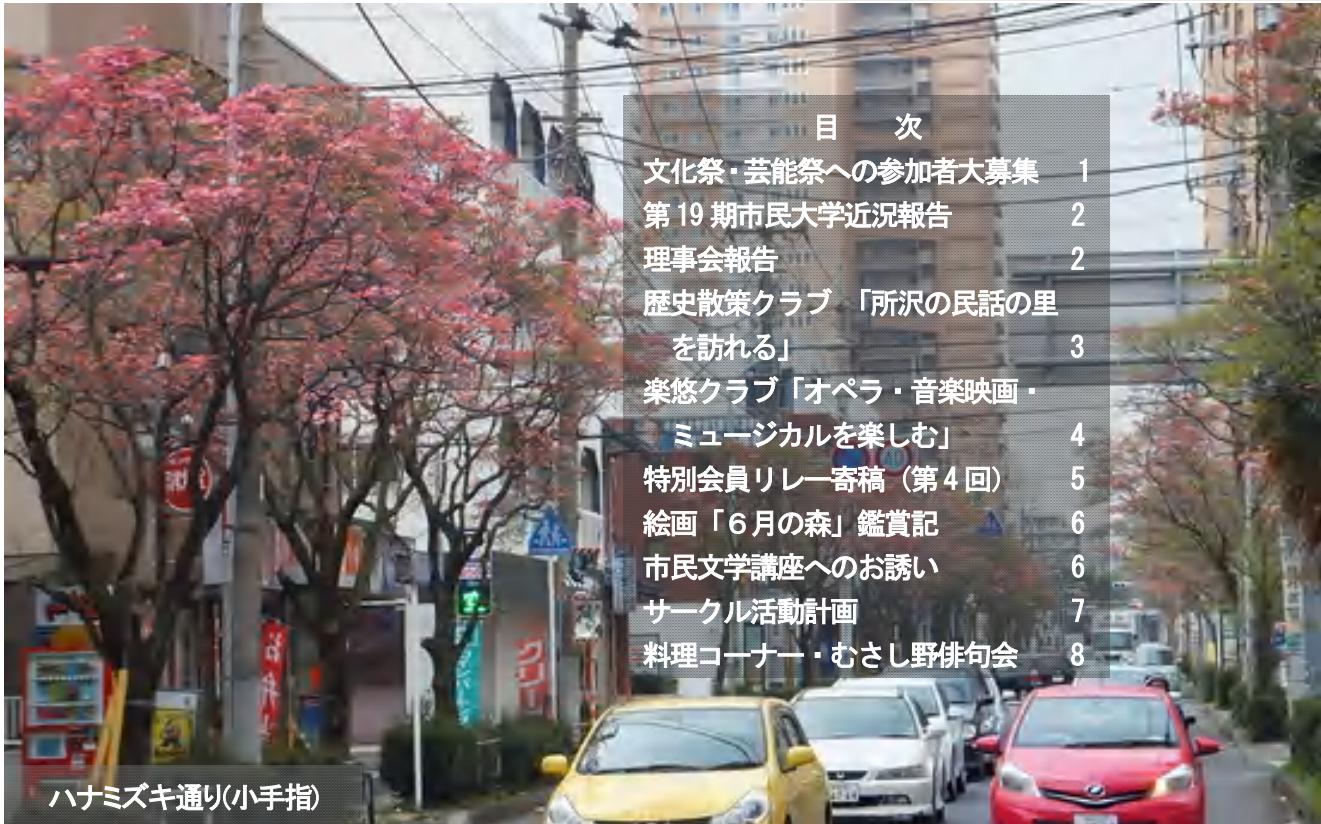


地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙
2012年 5月号 (第50号)
発行責任者 加曾利 厚雄



目 次

文化祭・芸能祭への参加者大募集	1
第19期市民大学近況報告	2
理事会報告	2
歴史散策クラブ「所沢の民話の里 を訪れる」	3
樂悠クラブ「オペラ・音楽映画・ ミュージカルを楽しむ」	4
特別会員リレー寄稿 (第4回)	5
絵画「6月の森」鑑賞記	6
市民文学講座へのお誘い	6
サークル活動計画	7
料理コーナー・むさし野俳句会	8

ところざわ倶楽部7月行事

「文化祭・芸能祭」への参加者大募集！

喉自慢、腕自慢の人大歓迎！奮ってご応募を…

事業部長 若山 昭

昨年末以来、今年7月に予定しております文化祭に参加していただける方を募集して参りましたが、現在のところ4組が参加の意向を表明されています。朗読劇、オカリナの演奏、マンドリン演奏、そして、この企画参加のために結成されたと言ってもいい会員有志によるバンド演奏です。

ところざわ倶楽部にはまだまだ芸達者な方が多数おられると聞いております。まだ枠は空いておりますので、ぜひお誘い合わせの上、奮ってご参加下さいますよう御案内申し上げます。

この企画の趣旨は、サークル活動主体の運営を基本とするとところざわ倶楽部にあって、サークルの枠を取り払い、より広くざくばらんな交流の場を提供することにあります。その結果として、倶楽部の活動目的の一つである「会員相互の親睦と情報交換」の実があり、さらに仲間の輪が広がればこれにすぐるものはありません。

この催しが計画されたのを機会に新たに結成された前記のバンドがいい例ですが、それまで知り合いではなかつた仲間と話すことで、意外な輪が突如出来るかもしれません。そんな企画にしたいと思っています。

参加申し込みは、下記アドレスへご連絡下さい。

Akr-wkyma@jcom.home.ne.jp

締切は5月末日とします。

5月の講演会案内

演題：「歌舞伎・文楽の中の清盛像」

講師：近藤瑞男 先生（共立女子大学教授）

場所：所沢中央公民館ホール

期日：平成24年5月17日(木)

時間：午後2時－午後4時

(開場 午後1時30分)

《第19期所沢市民大学の近況報告》

グループワークに新たな試み

19期企画委員 若山 昭

第19期所沢市民大学は、2年次は時間が足りないとの声があり、通例より少し早く、3月8日のオリエンテーションからスタートさせました。

2年次に進級した人は71名。1年次は80名でしたから9名の方が、なんらかの事情で市民大学を辞められています。

企画委員としてはできる限り全員進級をと努めましたが、結果としては89%の進級率となりました。

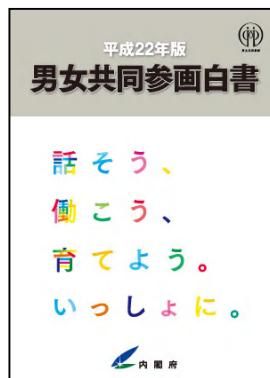
今回の講座は、古典芸能、音楽、地域の自然、男女共同参画、所沢の歴史、日本の農業、所沢の元気なまちづくりの7講座です。今年は新しい試みもやってみようということで、「男女共同参画」と「所沢の元気なまちづくり」の講座を入れました。所沢の元気なまちづくりには、専任講師を予定していません。自分たちですべて独自に講座を運営していくという、まさに自主自営の試みです。

当初から予想していたことですが、音楽、所沢の歴史、所沢の元気なまちづくりの

3講座に人気が集中しました。その一方で古典芸能は申込みなしという結果には驚きましたが、調整の結果、古典芸能6名、音楽14名、地域の自然9名、男女共同参画6名、所沢の歴史15名、日本の農業7名、所沢の元気なまちづくり14名という構成で2年次をスタートさせています。

現在、どのグループもテーマの設定に時間を費やしているところです。

仄聞するところでは、高齢者大学においても発表会という形式を取り入れたようですが、学習成果の発表というのはパワーポイントの使用方法なども含めて、受講生にはなかなかハードルが高いようです。これらの反省から今回、パワーポイントの使用を必須とはせず、楽しい仲間づくりに重点を置いているつもりですが、さてどうなりますか。



平成24年4月理事会報告

4月理事会は9日(月)10時から開催された。

総務部長 菅沼 康雄

1. 加曾利会長から当面の諸課題に対する所見

(1) 市営の福祉バスの予約がH12.10.12で取れた。
今回は環境福祉関連で企画を考えたい。

(2) 3月「男女共同参画」講演会は悪天候もあり参加者が少なかった。5月企画は準備周到にしたい。
(3) 前回提案した「カルチャースクール構想」の具体イメージの追加説明。検討委員会で総合的につめ、再提案し、議論し直す事になった。

2. 若山事業部長から、事業部事案の諸報告

(1) 3月講演会報告。集客の点に課題が残った。
(2) 5月講演会は「歌舞伎・文楽の中の清盛像」準備中
(3) 7月企画は文化祭とし準備中。

3. 池田広報部長からは、広報部事案の諸報告

(1) 広場4月号の紹介。3月議会を纏めた市政報告、サークル活動と特別会員特別寄稿の組合せが好評。
(2) 広場5月号の企画紹介と記事の依頼。歴史散策サークル、楽悠クラブの活動報告を中心計画。
(3) 会員登録のホームページ公式スタート。記事更新を。

4. 菅沼総務部長

(1) 第5期会員名簿を配布。概要説明:会員総数251名、サークル参加者総数320名、複数参加が定着化。

[次回理事会予告]

第6回5月14日(月)、第7回6月11日(月)

支え！学び！遊ぶ！サークル活動レポート

【歴史散策クラブ】

所沢の民話の里を訪れる

高木宏明

皆さんは私達の身近に多くの「民話」が残されているのをご存知でしょうか。

歴史散策クラブでは、従前より「所沢の民話」の読書会などを行つておりましたが、今回2月18日と4月12日の両日、伝承されている幾つかの話を偲んで、その舞台となつてゐる「民話の里」を訪ねてきました。

本紙面では私の拙文より「民話」に興味があるかと思いますので、当日訪れた中から、所沢駅から近い秋津の「日月神社」に伝わる民話「とんぼの宿り木」を紹介します。話に登場するご神木のケヤキは現存しますので、折がありましたら是非立ち寄つてみてください。



所沢の民話 「とんぼの宿り木」

昔、秋津村に無理なことばかり言って、村人たちを困らせている殿様がいました。この殿さまが、ある秋晴れの日、家臣を連れてそぞろ歩きをしていました。青空にたくさんの「とんぼ」が飛びかっていました。これを見た殿様は、家臣に向かって、「これ、お前たち、あのとんぼが取れるか」と言いました。

家臣たちは、また今日も何か無理難題が出るのではないかとびくびくしていたところ、いつもと違いやすいので、

「はい、それはわけもないことでございます」と申し上げると、殿様は

「そうであろう。ではお前たち飛んでいるあのとんぼを、わしの年齢だけ取って参れ」との命令です。

家臣たちは、相違して、これまた無理なことをとは思いましたが、命令どおりにしないとどんな目に会うかわからないので、一所懸命とんぼを追い回しました。

何しろ急なことで、用意もなく棒きれなどを振り回してのことだからうまくいきません。

小半時(30分)もかかったが、多くのとんぼは川を越えて隣の国へ逃げて行つてしまい、捕まえたのを数えてみると残念にも殿様の年齢には一つ足りません。そこで家臣たちは、やむなくこのことを、恐る恐る殿様に申し上げると、殿様はたいそう腹を立て家臣が捕まってきたとんぼをたちまち一握りに握りつぶし、それをわしづかみにして、すぐ近くの日月大明神の祠の



石段の上の本殿

前に立ち、

「これ、祠の主、お前に本当に神としての力があるならば、今わしが投げつけるとんぼのかたまりを、この木のまたから、別の木にして生やして見せろ。それができなければ、お前の祠は取り壊すぞ。また、それができたら、おれはもう

無理を言わない」と言いざまハッシとばかり、お神木のケヤキを目がけて投げつけました。するとどうでしょう、不思議なことにご神木のケヤキの木の股から、エノキがすくすくと生えだしました。

とんぼは、「無理」殿様の願う通りに、ご神木とは別の木に変わったのです。

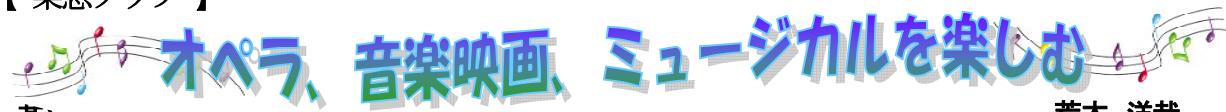
それと同時に、「無理」殿様は、一言も口のきけない啞となつてしまい、もう二度と再び無理難題を言うことができなくなってしまいました。

この殿さまの居たところは、柳瀬川の北側にある北秋津村であり、とんぼが逃げて行ったところは、多摩郡南秋津村だと言伝えられています。



現在は枯れて僅かに残るご神木

【 楽悠クラブ 】



荒木 洋哉

〈沿革〉

悠悠クラブは14期2年次の音楽グループの仲間が所沢倶楽部の発足時に立ち上げたサークルで、当初は“樂々くらぶ”(音楽を楽しむ)という名称でスタートしました。

14期2年次の音楽講座はドイツ歌曲とオペラを中心とする藤田明先生の講座で、28名という多くのメンバーが集まり、シーベルトの「冬の旅」を先生の解説と詩の朗読付きで聞き、そしてワグナーの「タンホイザー」DVDを、ストーリーの解説から見どころ聞き所をじっくり説明していただきながら、授業時間は殆どを鑑賞に費やす楽しい講座でした。お蔭で多くのメンバーがオペラの魅力にとりつかれ、卒業後も鑑賞する場を作るためにサークルを結成しました。

その後15期から18期までの卒業仲間を迎えて現在登録者40名、毎月のDVD鑑賞による例会を中心に、オペラの公演やその他のコンサート、藤田先生の演奏会に、また先生企画によるドイツ・オーストリーなどの音楽のルーツを訪ねる海外旅行などに参加するなど、楽しく充実したサークル活動を行っています。

〈例会〉

例会は月1回、主に火曜日の午後、中央公民館でのDVDによる鑑賞です。

オペラは4時間を超える長時間の作品が多く、家庭の環境ではなかなか集中して観ることが出来ません。例会ではプロジェクターによる大画面の映像と迫力ある音響によって臨場感あふれる映像を楽しめます。

最初の頃は有名な作品を一通り鑑賞しようと、ワグ

ナー、ヴェルディ、プッチーニなどの作品を多く鑑賞しましたが、だんだん気楽に楽しめるオペレッタのような作品も多く取り入れるようになってきました。(これまでに鑑賞した作品を下表にて紹介します。)

ワグナーの作品は重厚でストーリーの進行が遅く、長時間かかるので鑑賞も疲れますが、やはりオペラの真髄を味わわせてくれます。ヴェルディやプッチーニの作品は分りやすいドラマ進行と美しい音楽に感情が刺激され、つい涙してしまいます。一方、「こうもり」や「セヴィリアの理髪師」などはオペレッタといわれる肩の凝らない喜劇風の楽しい作品で、鑑賞中にも拍手や笑いが飛び交います。

今後はこういった楽しい作品も多く取り入れるほか、ミュージカルやバレーにも範囲を広げてゆく予定です。

〈その他〉

悠悠クラブは主にオペラなどの音楽を鑑賞して楽しむサークルです。月例会への参加は特に事前の届出不要で自由としていますが概ね15~30人位が参加して楽しんでいます。普段あまり話し合う機会がないのでお正月とお盆の時期の懇親会も重要な交流の場です。

昨年夏と今年の1月にはレストランを借り切って、プロのピアニストを交えてピアノ演奏を聞いたり、みんなで懐かしい歌を歌ったりして盛り上りました。

オペラやミュージカルほか、いろいろな音楽を楽しむことが私たち高齢者にも大きな活力を与えてくれます。これからもみんなで楽しいサークル活動を続けて行きたいと考えています。

これまでに鑑賞したオペラ、音楽映画の一部

タンホイザー (ワグナー)	神々の黄昏 (ワグナー)	ニュールンベルグの歌手 (ワグナー)
バルジファル (ワグナー)	ジークフリード (ワグナー)	ローエンゲリン (ワグナー)
ラインの黄金 (ワグナー)	リゴレット (ヴェルディ)	トロバトーレ (ヴェルディ)
椿姫 (ヴェルディ)	オテロ (ヴェルディ)	アイーダ (ヴェルディ)
ラ・ボエーム (プッチーニ)	蝶々夫人 (プッチーニ)	トゥーランドット (プッチーニ)
トスカ (プッチーニ)	ロメオとジュリエット (グノー)	ヘンゼルとグレーテル (フンパーディング)
カルメン (ビゼー)	タイース (マスネー)	セヴィリアの理髪師 (ロッシーニ)
ルチア (ドニゼッティ)	連隊の娘 (ドニゼッティ)	ドン・ジョバンニ (モーツアルト)
魔笛 (モーツアルト)	フィガロの結婚 (モーツアルト)	薔薇の騎士 (リヒヤルト・シュトラウス)
こうもり (ヨハン・シュトラウス)	仮面舞踏会 (ヨハン・シュトラウス)	ウイーン気質 (ヨハン・シュトラウス)
野ばら (映画)	菩提樹 (映画)	サウンド・オブ・ミュージック (映画)

特別会員リレー寄稿第4回

心地よい歌声

それは発声方法と自然な表現力に

藤田 明（聖学院大学教授）

市民大学でのテーマは「発声」

私が所沢市民大学の講義でいつも取り上げてきたテーマは発声についてであった。

人は生まれてからずっと声を出して話したり、歌ったり、叫んだり、泣いたりしている。だから、無意識に出している自分の声が最も自然であると思っている人が多い。しかし、ピアノや管楽器、弦楽器を演奏するのとちがって、自分の出している声を客観的聞くことは出来ないのでコントロールすることが非常に難しい。なぜなら、耳から聞こえるのはほんの僅かであり、ほとんどが骨伝導によるものだからである。

そこで良い発声方法を身に付ける為には、耳だけに頼るのではなく、体の中の細かい神経を感覚的に捉え

て操作しなければならない。

以上のようなことを説明しながら、理想的な発声で歌っているオペラ歌手の演奏を鑑賞し、私自身も大いに楽しませて頂きました。



ミュンヘン郊外にあるニュンフェンブルク宮殿を背景に

聞いていて心地よいコーラスを目指して

なぜ欧米のコーラスは柔らかく心地よく聞こえるのだろうか？という疑問を子どもの時から思っていた。その原因是言語習慣からくるのである。オペラ歌手にもいえることだが、欧米人の会話時の発声は呼気を多く使っている。呼気の量が多いとハーモニーがまとまり易く柔らかく聞こえてくるのである。それに比べ、日本人の言語習慣は呼気を多く使うのではなく、喉の筋肉の力が鳴らしてしまう。そして、歌う時にも同じように筋肉を使って歌ってしまうため一人一人の声が非常にきつく感じてしまうのである。

何年か前にドイツのオーバアマガワ（10年ごとに村人がこぞってキリストの受難劇を上演することで有名）という村に行った時、ちょうど合唱祭をやっていた。そこで、すぐ帰るつもりで聞きにいったのだが、どのグループも歌い方がとっても心地よく、とうとう最後まで聞いてしまった。こんなことは日本では経験できない経験である。これは発声の柔らかさと単純な歌を自然に、そしてとっても素朴に表現していたせいなのである。

それに比べ、日本のコーラスは発声に表現力が乏しいため、つい音符の難しい曲を選び、いかにもこんな曲が歌えるのだというふうに自己満足しているように思えて仕方がない。

私も合唱団をもっているが、それには出来るだけ単純な曲を選び、安らぎを感じさせる発声を考えた表現を目指している。

ところで、テレビで「私が証明よ！」といったようなコマーシャルがあるが、私のコーラス団体「女声コーラス“グリューン”」が7月22日（日）午後2時より所沢中央公民館でチャリティーコンサートを開催するので、聞いてみてください。



オーバアマガワ村のホールとステージ

【公園を楽しむ会】

絵画「6月の森」鑑賞記

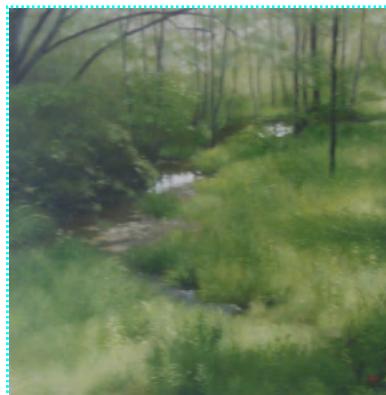
薄井文子

その絵「6月の森」は、埼玉大学教授安藤聰彦先生宅のリビング奥の壁に、静かにして清々しい空気を漂わせて掛けられていました。緻密な写実画風で、雨上がりのような鬱蒼とした新緑の雑木林のなかの、下草一面に薄い木漏れ日が差し込んで水面が輝き、森林浴をしているような、心が癒される絵でした。

4月10日、「広場」編集長池田さんと安藤ゼミ応援隊のメンバー7人で、安藤先生のご自宅を訪問しました。そこには、その絵の作者の藤井誠さんも招かれていました。

藤井さんは今年、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科を卒業されたばかりの27歳で、「ビエンナーレ・うしく」全国公募絵画展」大賞に選ばれるなど将来が期待される新進気鋭の画家です。

「6月の森」を描くに至った経緯など話して戴き、さらに日本びいきであった印象派のモネを意識するな



藤井 誠 画 〈6月の森〉

かで、写真のようなリアリズムではなく、日本の美意識も取り込んで、心安らぐような絵を描いていきたい。「光と水、そして風」をテーマに、「絵画は生活の一部であって、部屋に飾られていてもわざとらしくないものであってほしい」など情熱あふれる志を伺うことができました。

この絵「6月の森」についてお聞きすると、狭山丘陵八国山緑地、「ふたつ池」近くの樹林がモデルで、静寂な森のなかのしめた雰囲気を表現したかったとのことでした。

この鑑賞会は、「広場」24年2月号に掲載された、安藤先生のエッセイ「6月の森」の主題となった絵画を是非見せて欲しいと、厚かましくも先生にお願いしたところ、ご快諾戴いて実現したものです。

藤井さんが、更に多くの皆さんに愛される画家として成長し、ご活躍されることを願っています。



《市民文学講座へのお誘い》

テーマ：「3.11以後に松本清張を読む」

日 時： 平成24年5月18日（金）
13時30分～15時30分（受付：13時より）
場 所： 所沢まちづくりセンター中央公民館 ホール
所沢市元町27番5号
講 師： 早稲田大学文学部 大学院教授 高橋 敏夫先生
参加費： 無 料
共 催： 所沢まちづくりセンター中央公民館
サークル「漆の実」
問い合わせ先：中央公民館（Tel 2926-9355）又は
サークル「漆の実」 平栗 彰子
Tel 2925-3746
Fax 2925-6432
E-mail : hiraguri@topaz.plala.or.jp

▼ サークル「漆の実」は、所沢市民大学修了者を核とした文学爱好者で構成され、学びの成果を地域に還元することで地域貢献を果たしたい、として活動を続けているサークルです。代表は佐藤八郎氏。

▼ 講師の高橋先生は、ところざわ倶楽部とはご縁も深く、3年前に当倶楽部が企画した文芸講演、「藤澤周平の世界」では、皆さんから大好評を戴きました。

今回の講演も、興味深い考察を試みるそうです。ご期待下さい。

詳しくは別添のチラシをご覧下さい。

<h2>サークル活動計画</h2> <p>■ 5月・6月の活動に、皆さん参加してみませんか！</p>		地域の祭り研究会（影山洋 2921-8522） 5月 8日(火) 9時～11時 定例会 新所沢東公民館 渋川市に長年伝わる「半田歌舞伎」について討議 近郊の農村歌舞伎の具体的資料収集進捗状況確認
アジア研究会（小椋雄二 2921-7739） 5月 定例会 5月 19日(土) 東京大学「五月祭」見学。 午前 11時「所沢」駅集合。 6月 定例会 中旬開催予定、詳細後報。	地域の自然（加茂恵三 2944-6554） 5月 12日(土) 畑の掘り返しと堆肥の移動 9時～ 5月 26日(土) 畑の増設開墾と堆肥の移動 9時～ 6月 3日(日) イベントさつま芋植込み 10時～ ※イベントへの参加は大歓迎 早大B地区	
傍聴席（高垣輝雄 2926-7164） 5月 21日(月) 定例会、14時～ @新所沢東公民館 ①市の予算と予算書。基本と一緒に学びます。 ②市議会だよりを読んで ③広報ところざわを読んで・・市の色々を考えます。	歴史散策クラブ（大河原功 2943-2004） 5月 12日(土) 狹山丘陵最西端の裾野を歩く 6月 9日(土) 大石氏縁の滝山城址を訪ねる 集合場所・時間は両日とも 所沢駅ホーム（新宿行先頭車付近）・9:50	
樂悠クラブ（甲田和巳 事前連絡は不要） 5月 15日(火) 歌劇「愛の妙薬」DVD鑑賞 (場) 中央公民館 (時) 13:30～ 6月 12日(火) 歌劇「トシ・ジョヴァンニ」DVD鑑賞 (場) 中央公民館 (時) 13:30～	ドラマティック・カンパニー（ハ木雅子 2995-0148） 「クレオパトラとアントニー」を一時中断し、暫くの間「十二夜」の復習を行う予定です。 5月=12日・19日、6月=2日・16日 場所=新所沢東公民館（10:00～12:00）	
地球環境に学ぶ（塚本二郎 2942-3117） 5月 15日(火) 15:00～ @新所沢東公民館 定例会 各自勉強の発表、バスによるエコ見学会 (10月 12日) & 映画会（9月 22日）実行計画 6月 19日(火) 15:00～場所 同上 定例会	葵の会（池田新八郎 2940-0711） 5月 10日(木) 13:30～16:00 中央公民館5号 古典講座「平家物語」第3回 鹿ヶ谷・足習（俊寛） 6月 14日(木) 中央公民館予定 古典講座「平家物語」第4回「入道死去」	
地域の自然を考える会（前岳良子 2928-7334） 5月 12日(土) 代かき＜糀谷＞8:30 5月 19日(土) 四十雀観察会＜早稲田＞9:30 5月 19日(土) 救急講習会＜クロスケ＞13:30 5月 22日(火) 定例会＜トトロ 12号地＞10:00	野老澤の歴史を楽しむ会（山本苗子 2995-0876） 5月 10日(木) 武蔵野三十三観音巡礼③ 東村山駅9時集合 約7キロ 6月 7日(木) 武蔵野三十三観音巡礼④ 西所沢駅9時集合 約8キロ 6月 8日(金) 養蚕農家見学	
公園を楽しむ会（渡部正俊 2921-3014） 5月 24日(木) :「武蔵野の水と緑と歴史を楽しもう」 所沢駅東口改札内 9時40分集合 6月 21日(木) :「レインボーブリッジ～お台場～葛西 臨海公園を歩こう」所沢駅東口改札 8時30分集合	北欧の会（樋口俊夫 090-6483-7993） 5月 26日(土) 第31回例会 13時20分 テーマは未定 6月 23日(土) 第32回例会 13時20分 場所 新所沢東公民館	
所沢の自然と農業（高橋赳彦 2924-2056） 5月 15日(火) 例会 13:30～ @新所沢東公民館 5月 25日(金) 奥武蔵(大持～武甲)ハイク。(有志) 5月 28日(月) & 29日(火) 景観まちづくり展示 @ 市役所1階ロビー	音楽連・市民大学派（若山昭 2922-1494） 3月より月1回の活動になりました。 5月 21日(月) (中央公民館 13:00～15:00) 例会 6月 18日(月) (中央公民館 13:00～15:00) 予定 7月 23日(月) (中央公民館 13:00～15:00) 予定	



料理コーナー

後藤律子

桜の花も散り新緑が美しい季節になってきました。それと同時に、春野菜や新ジャガイモが店頭に並び始めました。今月は、そのうちのジャガイモを材料にした、私の故郷、北海道の郷土料理、「いももち」を紹介します。お子さんのおやつに、焼酎のおつまみに如何でしょうか。北海道はジャガイモの生産高で全国の8割を占めると言われ、「いももち」が昔からよく食べられてきました。

〈いももち〉 (4~5人分)

【材料】

- ① ジャガイモ : 5個(500g)
- ② 片栗粉 : 50g
- ③ 塩・胡椒 : 適量

【作り方】

1. ジャガイモの皮をむいて適当なサイズに切り、ジャガイモに竹串がすっと通るくらいまで茹でるか蒸す(電子レンジで加熱しても良い)。
2. ジャガイモの水分を切って塩胡椒をし、つぶす。
3. 2に片栗粉を入れよく混ぜ合わせ、練り上げる。
4. 少し粘りが出たら、ハンバーグの要領で平たく丸め形を整える。
5. フライパンで両面をこんがり焼いたら出来上がり。



※ お好みに合わせ、しょうゆや砂糖、バターなどで表面に味付しても、ノリで包みイソベ巻にしても良い。
※ 練る段階で中に溶けるチーズを入れると、「チーズいももち」に。

編集後記

編集委員 井手敏直

▼今回の編集会議は、春めいてきたので桜を見ながら実施しようということになり、市境を接する清瀬の金山緑地公園で行いました。

▼秋津駅に集合。途中で食べ物・飲み物を調達、空堀川沿いの「カタクリの里」に向かいました。ピンクがかった紫色のかわいいカタクリの花を愛でながら空堀川を辿り、せせらぎ公園管理事務所で一服。そこには小さなかわいいオタマジャクシが一杯泳いでいました。

▼再びせせらぎに沿って下り柳瀬川と合流、目的の金山緑地公園に着きました。辺りのソメイヨシノは5分咲きでしたが、三春の滝桜は満開で見事な花を咲かせていました。

むさし野俳句会(二十四年四月)作品抄

春埃地獄門とて免れず
花のもと補助輪とれし子が走る
座られよ梅の林の奥座敷
里山を膨らませたる芽吹きかな
龜(つちふる)や仮の暮しの瓦礫跡
利根川の水いろめきて入彼岸
母の日やおやつは何時も砂糖かけ
満開の桜をくぐり新学期
掃き清む日ごとの路地の落椿
春の野にローランサンの少女かな
マンションを風除けとして蓬生ふ

鈴木 征子
平栗 彰子
荒幡千鶴子
飯泉 陽子
井出 昇
海老澤愛之助
岡本詔一郎
小林 河瀬 素谷 岡本
貞夫 俊彦 昇 博

喜多院の空を押し上ぐ桜かな
日の射して山茱萸の花鏤(ちりば)めり 佐藤英子
芽柳のひと揺れごとに伸びにけり
漫る行けば君の肩揺れ春の宵
うねうねと踊るが如き臥竜梅
片栗の花の俯き深かりし
梅咲いて山峡の里明るめり
真似ごとの剪定の音はづみけり
春の宵そぞろ歩きの蔵の町
あのときもこの木の下の花見かな
種知るも手品師称ふ花見客

佐藤 八郎
白神 千代
高橋 三郎
高橋 二加子
高橋 三郎
高梨 千代
佐藤 八郎
小林 典子
中村 利根川
橋本 佑子 中村 直子 高光 泉

▼少し風があり肌寒い感じでしたが、若干(?)のアルコールも手伝ってか忌憚のない意見も続出、楽しい編集会議が出来ました。

▼なお、倶楽部のホームページですが、岡田理事の頑張りにより毎週更新されています。掲示板も設けられていますので、これを活用して皆さんのお意見・提案など自由に投稿して戴き、大いに盛り上げたいものです。

